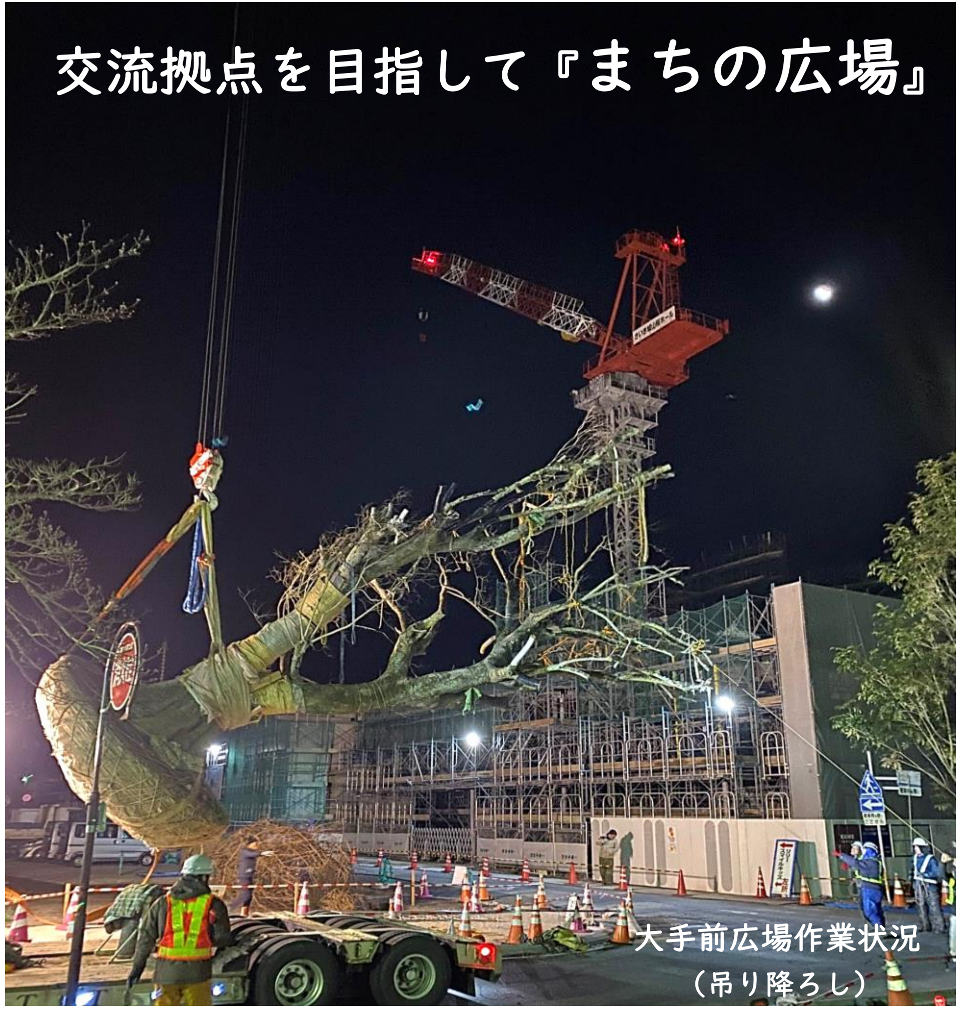
大手前新聞

創刊
2018年（平成30年）
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

交流拠点を目指して『まちの広場』



大手前広場作業状況（吊り降ろし）

1000mの大移送

1月19日午前4時、交通量の少ないこの時間帯に旧佐伯豊南高校から大手前開発事業地内の広場に樹木（エノキ）を移送しました（約1km）。高さ10m近くあるエノキの移送は、周辺の建物や信号機などをかわすため、交通規制を伴う大移動となりました。

縁（エン）の木

永く、佐伯豊南高校の歴史を見守り続けたエノキは、大手前に根を移し、新たな役目を担っています。その姿は、大きな幹と根張りの美しさの特徴に加え、しなやかに伸びた枝葉が心地よい木陰を演出してくれます。エノキは「縁」に通じるとも云われています。かつて佐伯豊南高校でそうであったように、ここでもまた訪れた人たちを見守り、素敵な交流の場を創出してくれることでしょう。

社会見学

新しい大地に根を下ろして

1月20日、大手前広場にて、佐伯小学校の児童約100人（1年生と5年生）が見守る中、エノキの植樹を行いました。

広場（植樹を見守る児童たち）

およそ18トンのエノキをクレーンで吊り、植樹していく作業、児童たちの目にはどのように映ったのでしょうか。いつかこの木を見てこの日のことを思い出してくれるでしょうか。今後、事業が完了し、子供たちがこの木の周りで楽しそうに遊んでいる姿が目に浮かびます。移送のため枝を切り軸だけとなった今は、十分な木陰を作ることはできませんが、この場所で少しずつ芽吹く枝葉は、広場をにぎわいと憩いの空間へと変えていくでしょう。

①根回し

旧佐伯豊南高校のエノキ

②搬送中

国道217号

③到着

大手前

広場整備

賑わいの創出
憩いと安らぎ

市は、「様々な人々が交流する拠点」「文化・芸術・情報発信の拠点」「歴史とにぎわいのあるまち」を目標に大手前開発事業を進めています。事業地内の各施設は、にぎわい創出のため、様々な活動やイベントの場として機能するよう計画されています。その中でも広場は、日常の憩いと安らぎの場としての機能も兼ね備えることが必要です。城山から続く緑の景観を繋ぎ、様々な活動を通して、にぎわいや憩いを創出することで、まちの交流拠点となることが求められます。

（写真はイメージ）

大手前広場（仮称）

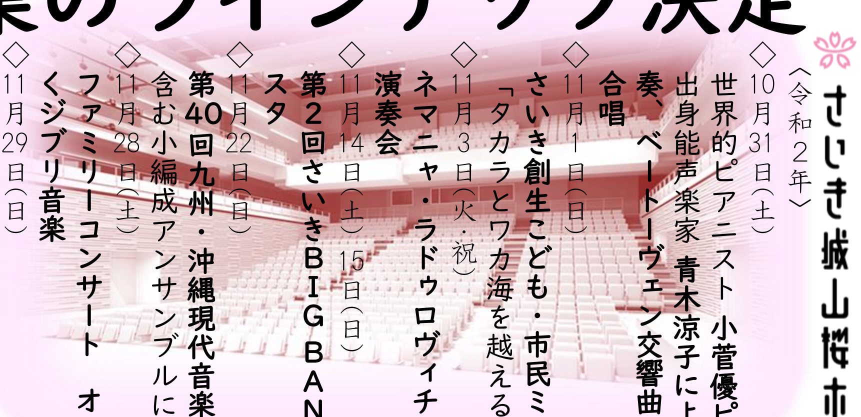
野外劇場前広場（仮称）

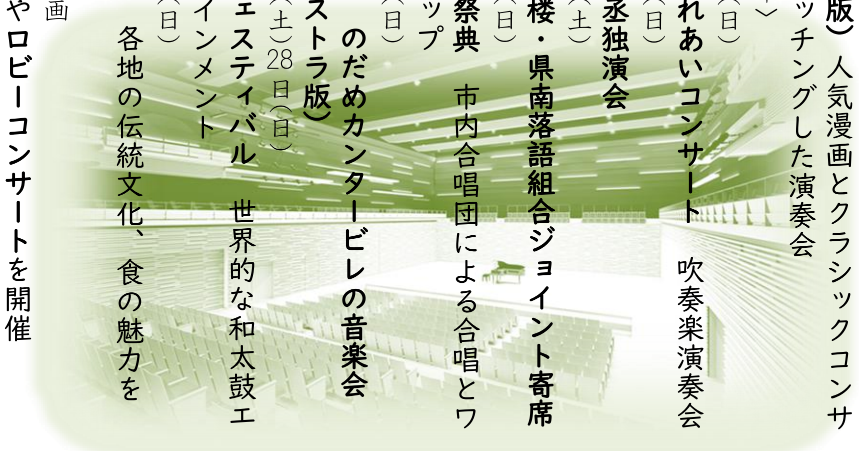
（大道芸フェスタ時の様子）

令和２年度開館記念事業のラインアップ決定

本年10月31日に開館するさいき城山桜ホールにおいて、開館後1年間をめどに実施する記念事業のうち、令和2年度に実施する主催・共催事業が決定しました。事業の企画に当たっては、国内外の優れた文化芸術を紹介する鑑賞事業、市内各地の祭りや伝統文化など、地域の特色をいかした創生事業、ワークショップ、講座、講演会など、市民文化のすそ野を広げる普及事業、以上3つの事業タイプを念頭に置いて、事業を実施いたします。

さいき城山桜ホール





〈令和2年〉

◇10月31日（土）
世界的ピアニスト **小菅優ピアノ独奏**、佐伯出身能声楽家 **青木涼子による謡と弦楽四重奏、ベートーヴェン交響曲第九番の演奏と合唱**

◇11月1日（日）
さいき創生こども・市民ミュージカル公演「タカラとワカ海を越える軌跡～桜編～」

◇11月3日（火・祝）
ネマニャ・ラドゥロヴィチ　ヴァイオリン演奏会

◇11月14日（土）15日（日）
第2回さいきBIG BANG!大道芸フェスタ

◇11月22日（日）
第40回九州・沖縄現代音楽祭　民族楽器を含む小編成アンサンブルによる演奏会

◇11月28日（土）
ファミリーコンサート　オーケストラで聴くジブリ音楽

◇11月29日（日）
伊勢正三コンサート

◇12月20日（日）
生で聴く　のだめカンタービレの音楽会（ピアノ版） 人気漫画とクラシックコンサートをマッチングした演奏会

〈令和3年〉

◇1月24日（日）
自衛隊ふれあいコンサート　吹奏楽演奏会

◇2月7日（日）
神田松之丞独演会

◇2月13日（土）
柳家権太楼・県南落語組合ジョイント寄席

◇3月7日（日）
合唱春の祭典　市内合唱団による合唱とワークショップ

◇3月14日（日）
生で聴く　のだめカンタービレの音楽会（オーケストラ版）

◇3月27日（土）28日（日）
TAOフェスティバル　世界的な和太鼓エンターテインメント

◇3月28日（日）
春の祭典　各地の伝統文化、食の魅力を発信

◇月イチ企画
映画鑑賞やロビーコンサートを開催

佐伯がいちばん！

外から見た佐伯市・大手前計画について…

平成26年4月に着任し、副市長として大手前開発事業に携わることになりました。

当時、「外（福岡）から来た何も知らない人で大丈夫なの？」という声もある中でのスタートでした。また、通勤や散歩の際、見知らぬ私にいつも元気よく挨拶をしてくれた高校生の姿が今でも思い出されます。佐伯市での生活の第一印象は驚きと心地よいものでした。

また、休日・公務を通じて市域を周るのが楽しみで、「地元の方とのお話」や、「水の子灯台守跡」「宇目の神楽」など様々な歴史・伝統文化に触れ、感動したものです。

そして、城山から望む大手前を眼下にし、自分なりに構想を描いたものでした。

城山から望む大手前

大手前計画を進める上で、「前計画」に係る地元関係者の方々の思いを大切にすることを考えておりました。お会いする機会を得てお話を伺い、ご苦労や大手前に対する思いの言葉は今でも忘れることができません。

市民会議・高校生部会、大手前開発基本計画協議会の皆さんの議論、ご意見などを伺い、大手前に対する思いや熱意はすばらしく、心が動かされたのを覚えています。

大手前開発基本計画策定に当たり、長年大手前に関わり、まちづくりに情熱をもたれていた課長を始め関係職員の皆さんには、無理な注文もいたしましたが、十分に応えてくださり感謝しております。

人口減少等の現状において、「地域の元気・活性化」は容易ではないと思います。これまでの取組にとらわれない「様々な発想」も必要ではないでしょうか、それができるのは「人」ではないでしょうか。私の知る佐伯人（さいきびと）、さきに述べた若者にもその「力」は十分に備わっていると思います。

さいき城山桜ホールの10月オープンを心から期待しております。

今後も益々佐伯市が発展されることを心から祈念いたします。これからも佐伯市の応援団の一人でありたいと思います。

前佐伯市副市長
白川　逸喜